



◆男子 (male)
 岩佐 敏弘
 Iwasa Toshihiro 大塚製薬
 172cm、57kg、26歳。
 第13回大会結果
 男子第4位／1時間04分24秒

2001年初マラソンの別府大分マラソンで2時間12分35秒で5位に入賞、2002年日本選手権5000mでは日本記録保持者の高岡寿成（カネボウ）に次ぐ13分32秒72の好タイムをマークし2位となり、その後同年釜山アジア大会5000mの日本代表となる。決勝では惜しくもメダルを逃す4位であったが、同年の全日本実業団陸上10000mでは28分11秒84で2位、びわ湖毎日マラソンでは2時間10分17秒で6位、札幌国際ハーフマラソンでは自己最高記録の1時間02分16秒で6位（日本人1位）になるなど、トラックにもロードにも対応できるマルチなランナーとして活躍中。

今大会は、1週間前にフルマラソンを走ったばかりであり、まだ体調は万全とはいえないながらも、先頭集団の中で積極的な走りを披露してくれた。最終的には離される結果となってしまったが、しぶとく4位に食い込む力走を見せた。



◆女子 (Female)
 エスタ・ワンジロ・マイナ
 Esther Wanjiru Maina 資生堂
 162cm、44kg、25歳。
 第13大会結果：
 女子第5位／記録：1時間13分57秒

1997年～2001年まで仙台ハーフマラソン連続出場、98年・99年大会をともに大会記録で連覇するなど、本大会ではお馴染みの選手である。99年東京ハーフマラソンの1時間06分49秒は世界歴代10傑に入る好記録。00年大阪国際女子マラソンでは2時間23分31秒で3位入賞。同年のシドニーオリンピックにマラソンのケニア代表として出場し、2時間26分17秒のタイムで4位となった。

01年、日立製作所より資生堂に移籍、気持ちも新たに、02年東日本実業団陸上10000mでは32分46秒65で1位、青梅マラソン30kmでは1時間46分58秒で2位、京都シティハーフマラソンでも1時間10分14秒でC.ヌテレバ（ケニア）に次ぐ2位と、さらなる飛躍に向かって走りに磨きをかけている。

今年は再び仙台に帰ってきて、あのダイナミックな走りを見せてくれた。1時間13分台での5位という成績は、本人の実力からすれば少々もの足りない結果ではあったが、沿道からかけられる声援はひととき大きなものがあり、人気の高さがうかがえた。



◆女子 (Female)
 橋本 有香
 Hashimoto Yuka 天満屋
 156cm、39kg、21歳。
 第13回大会結果
 女子第8位／記録：1時間15分29秒

2002年県実業団学生対抗選手権5000mに出場し15分58秒64で2位、続く全日本実業団陸上では10000mを33分06秒11で25位と発展途上の選手であるが、同年の東京国際女子マラソンでは、先頭集団から1分近く遅れながらも、粘りの走りで先行ランナーを次々と抜き去り、一般参加・初マラソンにもかかわらず2時間30分51秒というタイムで見事5位（日本人としては天満屋の同僚、松岡理恵に続く2位）に入賞。周囲を驚かせた。

またハーフマラソンでも同年の札幌国際ハーフで、00年～02年まで本大会3連覇のE.マイヤー（南アフリカ）に先着する1時間11分40秒で9位となるなど、これからの成長が楽しみな若手の有望株である。

今大会では、前半は果敢に食らいついて行くも、後半やや失速してしまった点が非常に惜まれるところ。しかしそれでも8位入賞。今後が楽しみな若手有望株として、活躍を期待したい。



◆女子 (Female)
 ジェーン・ワンジク
 Jane Wanjiku パナソニックモバイル
 162cm、49kg、23歳。
 ※故障のため欠場

2002年の南部忠平記念陸上では5000mに出場し、渋井陽子（三井住友海上）、市川良子（テレビ朝日）らを破って15分21秒68で優勝。スーパー陸上2002の5000mでも15分29秒23で3位となるなど、確実に力をつけてきているランナー。

同年の全日本実業団女子駅伝（第3区・10.0km）では、駅伝初出場ながらスタートからハイスピードでとばし、渋井陽子（三井住友海上）、松岡理恵（天満屋）、大南敬美（UFJ銀行）ら各チームのエースがそろって独走シーンを見せる場面も。結果的には32分35秒で区間6位に終わったが、その積極的な走りは評価したい。本大会は初挑戦。